

A. リーダーを作る（思修館の使命）

1. 日本に何がおきているのか
 - 日本のキシミ
何故おきだしたのか、ノーブレスオブリージェ
 - 何故おきたのか
アパシー、アトロフィー、グリッドロック

2. 世界に何がおきているのか
 - 世界のキシミ
日本化、ノーブレスオブリージェ
 - 何故おきたのか

3. 新しい時代とは
 - 人類に時におきるパラダイム・シフト
新文明の始まり、時代を先駆ける、時代に潰される
 - パラダイム・シフトとリーダー
リーダーとは何か、その役割とは

4. リーダーを作る：where、how
 - Where(時代を見る方法)
骨格を見る、生態を見る(既におこった未来)
 - How(リーダーを作る)
ソクラテス、ヌスバウム、ジョブズ

5. 心を知るは学問(問い学ぶ)の始め
 - 心の法則
江戸の知性学者、知政学の重要さ

一休みします

B. 知政学の5W1H（思修館の矜持）

1. 始まるにあたって

- 定義
言葉の定義（添付）、基本=知は発明される
知政学の準備へ、知性のシフト=オルテガの見方、論理とは

2. 知政学の5W1H

- What
知の政治学、人間(知性)が全ての原点
認知科学、次の時代の繁栄が目的
- When(フロニーモスたち)
古代アテネ、ヘレニズム、ローマ、中世イスラム
この30年で夜から昼へ飛躍
- Who
発明者はソクラテス、人類に時におきるパラダイム・シフト
近代にもゲーテ、20世紀のベイトソン、パトナム

3. 知政学の課題

- Where to go
務本の学へ、学の統合
育人論、研心論
- How(心の法則を知る)
問い学ぶ、天地明察が意味すること
新たな学習へ、メタコグニション、心のグレードアップ
- 日本再生（日本の西洋発見）
忘れたもの（崩壊するエネルギー文明）
心を知る、1万時間の法則
内的動機を作る、心(脳)を作る
- 心すべき言葉
研心、研心、研心

以上です。

知政学で使う言葉の定義(参考資料)

新時代にはかつて明治の西周、福沢諭吉がやったように、言葉を創造 (coin) 。言葉や概念は時代を超えることができず、新時代を話す時には常に新たなものが必要 (光の二重性は、近代科学の波、粒子性では光子の特性を説明できない) 。そのため、ベーコン、デカルトやニュートンの著書では最初に言葉の定義。尚、日本語は素晴らしい言葉だが、原義を知るには適さず(つまり、大化の改新、明治で一連の造語。それ以前の原義へは遡れない。しかし、英語では、ラテン語、そしてギリシア語の原義に遡れる。ギリシアで初の科学的思考が創造されただけにその原義は重要)。

自然： phusis, natura **発明者はギリシア人** (神を排除し、起因を自分たちの身の回りの水、空気、火、土等で説明)

精神： menos (記憶する)

物体： mater(母、素材)、corpus(知覚できる) : 物体は知覚できるもの、精神は理解するもの(魂の発明者はソクラテス)

科学： scire(知る)、sciens(知識) : 17世紀に出た新しい知り方(近代科学)に対応したもの・西周が適切にこれを禾篇に斗、分けて知る学 (物体用に適したもの) とした。20世紀のものは関係を統合する学で統学と呼ぶべきか? !

人間： homo sapiens(知性の人 : 現生人の学名)

知性： intellectus(認識)、intelligentia(理解する)

認知： cognitus(学ぶ、知る)⇒認知科学

徳： virtus(人間らしさ)

倫理： ethikos(マナー、習慣 : moral はラテン語)

政治： politikos(分別ある、キチンとした : polites は市民)